

2017年3月

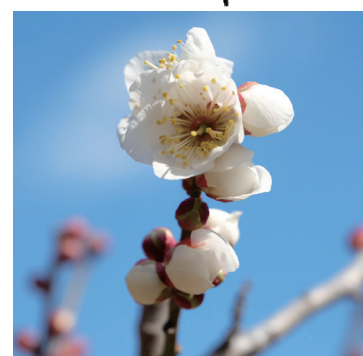
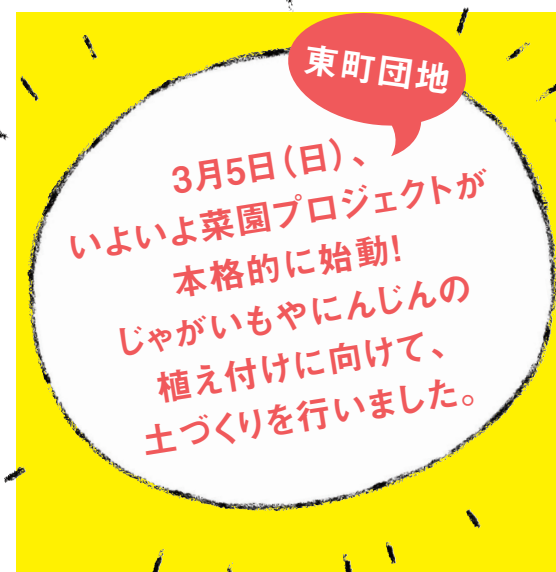
小高志

No.9

芽生え

小高復興デザインセンター

菜園プロジェクト 始動！



小高の春

3月4日第三回
まちなか部会を開催しました！

まちなかの空き空間の活用実践と、
魅力あるまちなか像について話し合いました。
詳細は次号にて報告します。

小高復興デザインセンター

2016年夏、設立しました。住民・行政・外部をはじめ
として、小高とつながりたいみんなが協働し、実践し
ていく場です。

〒979-2124 南相馬市小高区本町2-89 旧社協会館
TEL：0244-44-5100

Web： <http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>
<https://www.facebook.com/OdakaRC/>

生業の維持・協働体制構築に向けて

なりわい部会

なりわい部会では、
第1次・2次・3次産業の
枠を超えた協働体制づくり、
地域の課題解決に寄与する
生業の検討を行います。

分類	議論内容 <一部抜粋>
有害鳥獣	猪対策で電気柵の設置に余計な労力に要る。 ▶柿・柚・梅など鳥獣のエサをなくす。
土地の維持管理	避難されている地権者の土地利用の意向が分からず、地域でいかに土地を守るかを決められない。 中間管理機構*が取りまとめ、担い手に貸す仕組みを上手く機能させることが重要。 ▶農家サイドで中間管理機構の存在が知られていないので、周知徹底が必要。 除染・復興組合が終了すれば農地の荒廃が見込まれる。 帰還されない方の土地を一般宅地含めて管理する仕組みができないか。 自分の土地は自分で守るという意識が大切。
出口	買い手をしっかりリサーチして検討しなければ安易に実証栽培にのれない。
若手農業者育成	10年後を見据えて若手農業者を育てる必要がある。 ▶震災後、鹿島の方で営農しているが、人が集まらないわけではない。市のインターン制度でも若い女性の参加者があった。海外から人を集めるのも一つの手だと思う。それには地域の方々の理解も同時に必要となってくる。

※メールを参照願います。



相互に意見が飛び交い、大変有意義な時間となりました。

今回は主に、震災後、農業基盤が整う前から先立って営農を続けられてきた方にお集まりいただきました。

最後に、小高区内での農業・農地の課題について、話し合いました。

(平成29年2月28日)

(平成29年2月28日)

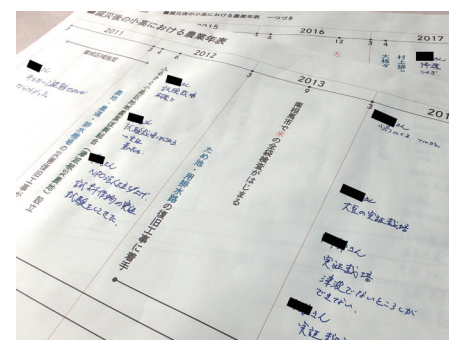
第1回 なりわい部会の様子

第1回目は、「農業・農地」を主題として、実証栽培や営農の実践者を招いて議論しました。

初めに、なりわい部会の趣旨をご説明した後、参加者の自己紹介と近況報告を行い、これまでの活動経緯を年表に書き込んでその場で共有しました。

その後、南相馬市農政課の職員より、南相馬市の農業の実態に関して、データをを用いた説明がありました。さらに、飼料作物の実証栽培をされてきた住民の方や、東京大学農学部の中井中均先生から、震災後小高区で進められてきた事業について、写真とともにご報告いただきました。

最後に、小高区内での農業・農地の課題について、話し合いました。



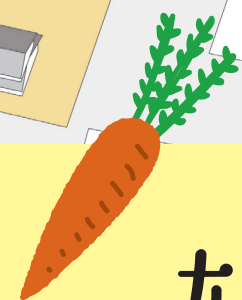
震災後の年表に、参加者の方々のこれまでの活動経緯を加筆しました。

でしたが、小高の土地をなんとか維持管理していきたいという想いの強さと、それが様々な影響を受けて困難になってきていることへの苦悩とが、言葉の端々から感じられました。復旧事業や組合管理が終わる前段階から考えられる対策や、把握すべき実態があるように思いました。

今後は、今回参加いただいた方々にならない、小さくても成功事例を増やすことと、土地の維持管理対策の検討を進め、折りをみて第2回以降の部会の場をもちたいと思います。開催時期等の詳細はホームページやポスターにて告知させていただきます。



1回目から
たくさんの方へ
お集まり
いただきました



東町団地 菜園プロジェクト 始まりました！

まちなか部会、つながり部会で出たアイデアをもとに、東町団地での菜園プロジェクトがスタートしました！

第1回目は、東町団地の集会所にお邪魔して、住民の方々と植える野菜や活動内容を決める作戦会議を行いました。

「まずはこの広い場所から始めるといいね」

「最初はジャガイモとニンジンがいいんじゃないの？」「収穫したらカレーパーティーをしたいね」「ここは日陰だから、アオジソがいいかもしれない」「アオジソと採れた野菜でお漬物つくれるね」「この場所は盛り上がりつつあるから、

書き切れない
ほどの
アイデアが
出ました！



花を植えるときれいにみえそう」「お花を植えるならザルギクがいいんじゃない？」などなど、書き切れないほどたくさんの方々のアイデアが出ました。これからいよいよジャガイモやニンジンづくりが入ります！

今後もまちなかにみんなで集まれる菜園を増やしていきたい！と考えています。「うちの周りにもぜひ！」という方がいらっしやいましたら、ぜひご相談ください。

小学校再開に向けた 先生方の想いと、記憶の継承

先生方の率直なお気持ちを伺いました！

仮設校舎の記憶を次世代へ

平成24年、鹿島中学校の敷地を借りて完成した仮設校舎も、そろそろ役目を終えようとしています。平成25年には特別校舎（音楽室、家庭科室）、平成26年には体育館ができ、教育環境を一つ整えるのにも大変なご苦労があったことが想像できます。今回、仮設校舎を模型にして次世代に残すご提案をされた先生方にお話を伺いました。

——なぜ、模型にしようと考えられたのですか？

高野校長 今の六年生は、ずっとこの仮設校舎で学習してきました。彼らにとっての小学校はここです。普通の教育環境に近づくよう、体育館や特別教室などを増築したり支援

の活動を続けてくださったりした方々の想い、離ればなれになったり他校の友達と一緒に生活したりする中で学んだ友達の大切さ、そういうものが校舎には詰まっています。彼らがいつか大人になってこの模型を見た時、そのような想いを振り返ることができると思っています。また、中学校進学の際、離ればなれになる子どももいるので、そういう子どもたちも母校を訪れるきっかけになってもらえるのではないかと期待しています。



右：高野博幸校長先生（小高小学校）
左：渡辺博明教頭先生（鳩原小学校）
※模型は小高小学校の空き教室に展示される予定です。



佐藤真紀子先生
（1年生担任）

仮設校舎で苦勞したことは、特別教室（音楽室・家庭科室等）の環境です。楽器がなかったので分け合って使ったり、調理台がないので、鹿島中学校の家庭科室をお借りして調理実習をしたりしていました。その点、本校舎には、新しい教材や教具が準備されるとのことなので、充実した環境のもと、子どもたちがのびのびと学習できると思います。本校舎を見学してきた子どもたちの中には、「校庭が芝生になっていた！」「三階建てだった！」と話す子どももいて、楽しみにしている様子が伝わってきました。

3月に、先生方のアイデアで仮設校舎の模型を作成しました！作成には、福島県の模型業者さんと東京大学大学院生さんにご協力いただきました。

学校別の在籍生徒数（H28.9）				
	小高小学校	福浦小学校	金房小学校	鳩原小学校
1年	3	1	1	1
2年	8	3	4	1
3年	5	2	2	0
4年	13	2	0	1
5年	10	2	4	2
6年	14	8	6	1
計	53	18	17	6



大富行政区の 取組みをご紹介します！

美しくておいしい風景づくり、集まって楽しむ場所づくり、非耕作地の有効活用という二石三鳥の取り組みが始まっています。大富行政区の渡部義則さんにお話を伺いました！

——大富行政区での新しい取組みについて教えてください。

きっかけは避難指示解除になったことです。西部地区は人口密度が低くなり、大富は70数戸あったのが、現在、10戸程度が帰還し生活しています。徐々に戻りつつありますが、帰還するのは将来的に3割程度かもしれません。住宅がまばらに点在し、孤立する恐れがあります。そこで市の支援を受けてみんなが集える場所をつくらうということになりました。11月末にスタートして、初回は10人以上集まりました。10時間館の予定が、9時半にはもういらしていた方もいて、「楽しみにしてきたんだ」と言われました。仮

設から来た方もいました。

——具体的には何をされるのですか？

集いの場サロンと並行して、非耕作地にミツバチの好きな花を咲かせて蜂を飼うことにしました。大富の公会堂は丘の上ですが、そこからの眺めが荒れていては寂しいので、眼下の土地を借り、ヘアリーベッチという花の種を蒔きました。緑肥でもあります。採蜜できたらみんなで味わうのを楽しみにしています。

——今後の展開をお聞かせください。



寒さにも関わらず、素敵な時間です！

かけの森サロンからの風景。非耕作地にヘアリーベッチの種を蒔きました。



小高の復興を考えると、まちなかに目が行きがちですが、集落も大事です。サロンを開くだけでなく、その先の先を見据えてやっていかなければと考えています。地区を離れても土地は残ります。その後の維持管理は厳しくなるだろう、その土地をどうするのか。県の中間管理やソーラーもあるが、それだけでは解決できません。お茶を飲みながら色んなアイデアが出てくると思います。そのような意図もあってサロンをオープンしました。

公会堂は山麓線沿いにあるので、近隣行政区の方々にも気軽に寄っていただけるサロンになればと思っています。広域的な利用も視野に入れています。

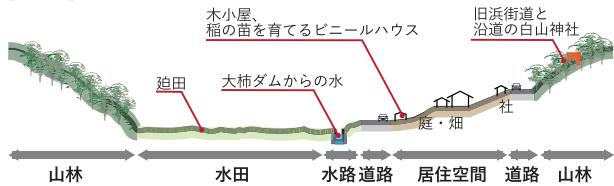
——まずは紫の花が咲くのが楽しみです！

上浦行政区での取組み

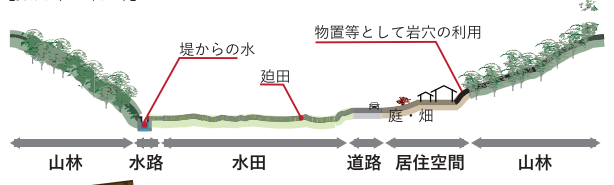


迫の空間の模式図

【木曾迫】



【藪内（延命迫）】



上浦内での現地調査や、地域の皆様への聞き取りに基づき、風景や暮らしの様子を読み解きました。地形に寄り添い暮らししてきたことがわかります。



課題の背景



農地の管理は大きな課題です。（中央は猪が掘り返した跡だそう）

帰還者が少ない・高齢化・放射能汚染・生活環境

間取りから整理した上浦の課題

コミュニティ・つながり

農業・財産の管理

日常生活の利便性

安心した生活

今後に向けて

集まる場をつくる
放射能リスクについて知る
地域の足や営農の
担い手について考える

ワークショップでは、調査の報告と今後に向けた問題提起を行いました。

上浦行政区では、平成27年度に、小高区地域協議会のワーキンググループ（WG）の活動として地元の方々と「上浦あるき」、ワークショップを行い、地域の魅力を再発見してきました。平成28年度は、上浦の将来像を地元の方々と考えるために、被災後から現在までの住民の皆様の避難生活の実態や現在の課題の聞き取り調査を行ってきました。

浦尻行政区での取組み



浦尻の現況と、明らかになっている進行中の計画、空間的な資源をまとめました。



浦尻公会堂での報告の様子

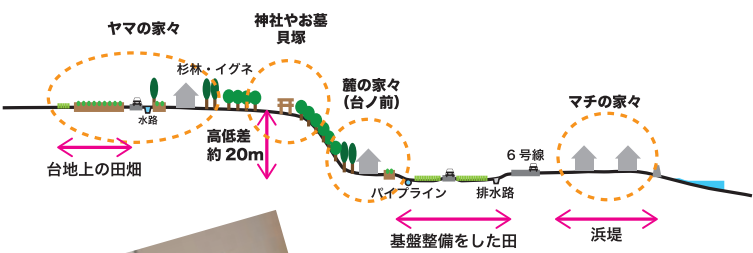
浦尻行政区の将来像を住民のみなさまと考えるように、浦尻の方々にお話を伺い、現地調査や文献調査をし、復興に向けて資源になりそうなものを整理しました。また、地域の空間を理解するための模型を、日本大学工学部建築研究会災害対策研究班の協力を得て作成しました。

こうした調査の成果を、12月に浦尻婦人会主催の地域のイベントの場で展示説明させていただき、また多くのご意見をいただきました。

浦尻の将来像を考えるにあたって、浦尻が有している地形的な特徴や震災前までに積み重ねてきた歴史や資源を理解することが非常に重要だと考えています。今回の調査ではまず、震災前の土地利用、敷地の使い方、生業や伝統芸能を整理しました。

続いて、浦尻の現況と、明らかになっている計画をまとめました。低地部では海岸防災林を整備中ですが、浸水地全体の今後の土地利用の方針について市で検討を始めています。しかし、浦尻の外で

浦尻の地形と震災前の土地利用の模式図



浦尻の地形模型

生活する方もいらつしやる状況の中で、今後も耕作されていない農地、管理が行き届かない空き家や空き地が増える可能性があります。一方、空間的な資源として、公園化が検討されている浦尻貝塚、海見える丘、田畑を見下ろす丘、家々の美しい庭、公会堂、神社、共同墓地を挙げています。今後、浦尻の復興に向けて、どういう浦尻にしたいのか、そのためにどのような課題をどのように解決していくのか、みなさまのご意見を伺いながら共に検討できればと考えています。

3 上浦の今後を考える

調査を踏まえて、11月には上浦公会堂にて、「上浦の今後を考えるワークショップ」を開催しました。地域の方からは、不安なことなどがあげられましたが、新しい風景をつくっていききたいという声もありました。また、地域の方々の力で、サロンの開催に向けた検討が進んでいたり、農業・農地についての話し合いも始まっています。こうした前向きな思いを大切に、取り組みを進めていきたいと考えています。

2 現状の課題を把握する

避難指示解除後、10月に、地域のお祭りが復活するなど、少しずつ行政区内に動きが見えてきました。

一方で、地域が抱える課題や住民の皆様が抱く不安の把握も重要です。上浦行政区の皆様は、平成28年の夏から秋に行った聞き取り調査では、後継者不足や放射能汚染などに起因した農地などの土地管理の問題、コミュニティ維持への不安、買い物や通院の移動についての不便や不安が浮かび上がってきました。

1 上浦の風景や営みを読み解く

小高の行政区には、それぞれに魅力的な風景があります。上浦では、迫（さく）と呼ばれる谷地形に沿って、住宅や神社、田畑がならぶ美しい風景をつくっており、この空間を舞台に生活が営まれて来ましたが、将来像を考えるにあたって、この風景が基盤になります。